

令和7年度 市政懇談会1回目

- ・日 時 令和7年10月30日（木）19時00分～21時05分
- ・場 所 志度公民館 大ホール
- ・出 席 者 市長、副市長、教育長
自治会長等51名、傍聴7名
事務局
市民部長、生活環境課長（司会）、生活環境課担当
- ・議 題 (1)市政報告（資料1）
(2)市政への提案・意見等について（資料2）

開催にあたり事前に各自治会から市政全般、地域に共通した内容の市政に対する提案や要望等を募集し、事務局でテーマごとに意見・要望及び回答を取りまとめ資料として参加者に配布した。

時間の関係上、全ての要望等に対する回答は書面として行い、市の課題や広く市民に関係する要望等について市長が回答した後、参加者との意見交換を実施した。

市長の回答及び意見交換の内容は次のとおり

1 地域活性化について

○市長回答

今回の市政懇談会には各自治会の皆さんより、お忙しい中、42の自治会から延べ74件の御要望をいただいた。74件全てに回答したいが時間も限られているので、連合自治会で絞つていただいた、地域活性化8件、社会インフラ17件、環境衛生7件、農業政策3件の項目について回答する。残りのコミュニティ、行政、公共施設、福祉政策、防災対策、教育行政、市民病院、空き家対策については回答書を見ていただけたと思う。まず、地域活性化だが様々な活性化の方法があるということを教えていただいた。さぬき市は残念ながら消滅可能性都市と言われている。これは香川県では東かがわ市、さぬき市、小豆島町、琴平町の2市2町となっている。増田さんという元官僚で知事をされていた方が地方創成会議を作られて今から10年前ほど前にこういった予測をした。去年10年ぶりにやり直した結果、消滅可能性都市の数は減少し、確かに香川県でも10年前は9つほどあったものが、4市町になったと記憶している。女性の方には不適切な表現だと思うが、20代、30代、40代の方で子どもを産むことが出来るというのは失礼な言い方だと思うが、そういう女性が一定の期間に50パーセント以上少なくなる。そういう指標で統計的にするとそれが50パーセントを上回って減る所は将来、地方公共団体がなくなると簡単に言えばそういうことである。先程、小豆島町と申し上げたが、土庄町が消滅可能性都市であった。小豆島町の削減のパーセントが49. いくらくらいで50パーセントに達していないので、今回対象からはのいたが、実質上49.9パーセントと51.0パーセントはほとんど差がないので一緒にと小豆島町長と話したため、勘違いして伝えてしまったが、確かに土庄町、琴平町、さぬき市、東かがわ市である。消滅可能性都市だが、香川県でいうと旧大川郡と小豆郡である。琴平町が出でているが、西高東低と言われた地域の特徴で若い女性というか子どもを産む可能性の高い女性の削減率が旧大川郡と旧小豆郡で、小豆島町については指定を免れているが、ほぼ同じだと考えると消滅可能性都市にほと

んどなっているというのは一つのヒントになろうかと思う。その地域に共通することをこれから直していくことが出来れば消滅可能性の率が下がっていくのではないか。そして小豆島町では移住や観光に基本的に焦点を当てており、香川県の中で移住者の率で言うと非常に多い。移住して住んでみたいということを目標にしてやっていらっしゃると、オリーブを中心とした観光を掲げて努力されている。さぬき市も東かがわ市も負けずに旧大川郡の仲間として何とか消滅するようなことを 10 年後に調査する際には、汚名返上したいと思っている。ただ、推計で言うと 45,000 人くらいだが、2065 年、今から 45 年後には 28,000 人と国の人口について研究している研究所から出ているので、人口減少をどうするのか先ほど冒頭の挨拶の中でも申し上げたが、子どもをたくさん産みたい、移住をしたい、もう一つは住民の皆さんの同意が必要になるかと思うが外国の方がさぬき市には 700 人を超える方に住民登録していただいている。そういう方を増やしていくのも一つの方法であるが、国で外国の方とどう付き合うのかは政党で意見が違う。特に総理大臣はどちらかと言うと、良い面よりも悪い面を何とかしたいと所信表明でおっしゃっていた。住民の方も様々な考えがあると思うので、丁寧にこういう形で外国の方が増えると活力が生まれるので、外国の方と共生しましょうということも一つの方法でないかと思っている。観光についてだが、観光に来てくれたお金も落とすと言うが、考えなければならないのは観光に来たけど二度と来ないという観光もある。そこに行ってあまり感動しなかったという観光もあるが、ただその年には観光客が増えるので活性化したような錯覚に陥る。瀬戸芸の夏会期が終わり、3 年後にさぬき市が参加出来るか分からぬが、今は瀬戸内海の復権というテーマで行っているので、山手の方は瀬戸芸に参加出来ない。さぬき市も東かがわ市も前回までは参加したことがなかった。これまで人が住んでいる島を持っている市町村か、もしくはそういった所に航路を持っている市町を対象として始めたので該当しなかったが、東かがわ市長と一緒に働きかけをして、海に關係ある所は一緒になってやりましょうということで今回参加した。今後、一過性ではなく、べらぼうの話もしたが、平賀源内役の安田顕という俳優さんがどちらかというと主役を食ったような方というのか、味がある。味があるということは一過性ではなく、もう一度この人の物を見てみたいと思う。そういうことを考えていかないとある時に来ただけではいけない。意見の中で東讃にお寿司のチェーン店があつても良いのではないかと言う御意見をいただいて、なぜ来ないか、寿司屋さんが市場調査を行いこの地域ではペイ出来ないという判断をされていることも一因である。逆に言うと、活性化すればこちらから頼まなくともお店が来るということの裏返しなのでそういう意味で、民間の方にとってもここで投資したら良いのではないかという活力を生み出すことも必要でないかと思う。後は人口減少で昔の様に出会いも少なくなったので、若い人の出会いの場を作ることを、さぬき市商工会が行っているが、最近、結婚や出産に対して私のようにオールドな考えを持っている方が少なくなっているのか、昔は男の子と女の子が傍にいるだけで何をしているのかと言われて育った年代と、今の様に良い意味でフランクに男女の付き合いが出来ている違いがある。そういう方と話をしようと思ったら結婚をして家庭を持ちたいと思っていた時代と、結婚はたくさんある選択肢の一つで結婚という形をとらず、子どもも必ずしも作らなくても良いという方もいるので、上手く集約出来たら良いと思っている。他の市町と違うのは教育で、義務教育が小学校 6 年、中学校 3 年あり、9 年間学校で自分の子どもがいじめもなく、不登校にもならない、

さぬき市の学校に行けば子どもが 9 年間楽しく過ごせるのは主流派ではなくて、保護者の皆さんはもう少し学力につけるような学校にしてほしいと思う方が多いかも知れない。でも、学力は言い方が良くないかも知れないが小中学校だけでつけるものではなくて、もっと上の段階でつけることが出来ると私は思っている。不登校がさぬき市は多い。だから、不登校もいじめもない 9 年間を過ごすとやはり自分はこういうことをしたいという道が私は開けると思うので、小中学校で学力が良くなることも大事だが、いじめも不登校もない学校がさぬき市にはあるので、少なくとも 9 年間だけはさぬき市へ行って生活しようということになれば良いと思っている。一つの長く続く基本的なものとして教育をこれまで以上に学力だけでなく楽しい学校にするということをしていきたいと思う。大串半島の話もいただいているが、時の納屋は最初で最後ではなく、単なるスタートでそこで来た人を出来たら長尾や寒川、大川、津田にさぬき市にせっかく來たので他にも来てもらい、大串半島そのものもいろいろな良い所があるので、釣り公園というのもあって、もちろん費用対効果の問題はあるが整理をして様々な方が満足出来るような、しかし、あれもこれも求めるとあれもこれも失うのが世の常なので、とりあえずこれだけはということで時の納屋を運営しているので、時の納屋を中心に今後の活性化に繋げていきたい。もう一つ文理大の話をしたが、さぬき市にとっては非常に痛手であるが、皆さんも新聞、テレビで御存知かも知れないが、お味噌のメーカーでマルコメさんが一つの建物を研究開発機関として使っていただいている。ただ、それはたくさんある建物の中の一部なので、さぬき市の活性化に繋がる所まではいっていない。会社が来るというのは他の会社も来てくれる可能性があるのと、残念ながら文理大の所有は学校法人が持っている。さぬき市が持っていて貸しているのであれば、様々な使い方があるが、学校の了解をもらわなければならぬので、第二の会社、それからグランドが 2 力所あるのでその使い方を協議している。今回の発表までに間に合わなかったが、学校と話を続けているので今後とも人が来る、特に学生が使っていたアパートも空室になると勿体ないので、何とか労働力を外から持ってくる。外国人の方も含めて、アパートが使えるのであれば応援をするが、外国人の問題は先ほど申し上げたように様々な考え方があるので、丁寧にしていきたい。もう一つは香川県の県立大学を造る話があり、先日も委員会をした際に知事が、香川県の高校生は 2 割程度しか県下に残っていない。2 割しか残らない所に、県立大学を造ってもどうするのかという意見もあるので、まずはこういう大学であるということを皆さんに知つてもらわなければいけないと言っていた。校舎を建てるのであれば、さぬき市や文理大の了解が必要になるが、話に入っていけるのであれば一つの方向として考えている。全ての回答は出来ていないが、回答をお渡ししているので、この場以外でも御意見等があれば伝えていただければと思う。

○意見なし

2 社会インフラについて

○市長回答

高徳線について私も非常に心配している。高徳線も心配しているが、琴電志度線、長尾線も心配しており、琴電志度線は屋島まではペイ出来るが、志度までは赤字になっているとの報道もなされた。長尾線は三木まではペイ出来るが、長尾へ行くと赤字で、高徳線に至って

はどこまで行っても赤字だということなので、遠からずJRから一部、地元の負担、レールは各団体が持たない場合は走れないということを言ってくると思う。ただ、その前に心配しているのは駅とばしで、高徳線が一番問題なのは、複線でなく単線なので、東かがわ市長と話しているが、白鳥から高松へ行く時にノンストップで走れば特急とあまり変わらない。ところが、造田で10分、志度で10分と間で走る時間と同じ時間、待ち合わせをする。後ろから来る特急が追い抜くのと前からくる列車に当たらないようにするので、すぐに解消する方法がない。高松を出て栗林、屋島、志度、三本松と途中の駅に止まらないことを考えているのではないかと思っている。それはさぬき市にとって非常に重大な問題であるので、例えば志度にパーク・アンド・ライドがあり、今もしているがもっと踏み込んで、自動車で来てもらい志度駅には必ず列車をとめてもらうために、乗客の皆さんを出来るだけパーク・アンド・ライドにすることを考えなければいけないと思っている。これから社会で優先順位の高いものは、一番目は安全安心な防災・減災、二番目は環境である。温暖化が進んでいくと様々なことをしても地球そのものがもたなくなるので環境に資するもの、カーボンニュートラルは非常に補助金もつきやすい。ただ、補助金をもらうのは様々なハードルもあり、後で浄化槽の話もするが環境に優しいのをすれば補助金もつくが、なかなか現実的な問題がある。少なくとも、国のお金をもらおうと思えば安全安心と環境に優しい環境負荷を軽減する。その方向で市民の皆さんの要求が満足出来るように考えている。御提案の中で、終電が早すぎるのでオレンジタウンで止まってしまい津田に帰れないという御要望をいただいている。本来は徳島県まで行ければ良いが、そこまで行くには経費がかかるので、次の朝の便も考えてオレンジタウンで止めている。一つの工夫として、今よりも少しでも便利になるための御提案だと思っているので、JRに話をしていきたいと思う。後は新設校区について様々な考え方の方がいると思うが、少なくとも子どもたちの安全を確保するために道を拡幅しており、既に道路を広げたり、歩道を作ったりしている。優先順位の中で、それでお困りの部分について意見交換をして出来ることからしていきたい。もう一つは、川の中に木が生えて水が流れないと、回答書では県が管理するので長尾土木事務所に伝えておくと書いているが、住民からすると何も良くなっていないと県を動かしても支障のあるような木や草を何とかのける努力をして欲しいということだと思うので、これまで以上に長尾土木事務所と話をしたいと思う。川は当たり前であるが、海から上がっていかなければいけない。距離もあるのでなかなか難しい。もう一つ大雨が降った時にサイレンを鳴らしたら気を付けるよう言われるが、サイレンを鳴らして気を付けたら安全なのかといつも県と話をする。県は、ダムの管理規則を持っていて、この要件の時は水を出さないとダムそのものが壊れるということで出しているが、海際の住民の方から言うと、ただでさえ河川が上がっている所に放流されたら、水が溢れるということについて考えていただいているので、いくら放流を調整しても川の中に水の流れを妨げる物があれば意味がないので、これはすぐにのけなければいけない、しばらく大丈夫という基準があれば長尾土木事務所と話をしていきたいと思う。作ることも大変だが、これからは維持管理、優先順位の高いものからしていくが安全安心については国も力を入れているので、人の命に係わるものについては県にも要望し、市でも出来ることについてはしていきたいと思う。回答書最後に、集中浄化槽の要求があったが、個人で合併処理浄化槽を設置する時には助成があるが、集中浄化槽でする時に制度がない。浄化槽協会や様々

な所で環境に貢献する、CO₂の削減にカーボンニュートラルにするための補助金はあるので、様々なハードルがあるが県知事にも要望の際に一緒に考えていただき、公共水域の浄化をするのは環境にとって非常に大事だと承知しているので、引き続き自治会の皆さんとも話をして、出来るものから一つずつしていきたいと思う。

○意見なし

3 環境衛生について

○市長回答

ごみの収集については、毎年お正月や年末など実態に合わせた形に出来ないかという御要望をいただいている。今さぬき市では、委託業者の方にごみ収集をしていただいて紙漉にある東部清掃施設組合へ持っていくもらっている。その関係もあり、ごみ収集の回数や、粗大ごみの取扱いに御意見はあると思うが、収集のための経費を物価高の中で市が十分に上げてくれないので業者も困っている現状もあるが、様々なことで協力をいただきながら、一つからでも二つからでもやりたいと思っている。もう一つごみの問題で、先程、外国人の話もしたが言葉の関係もあるのか、この日以外は捨ててはいけないという看板を日本語と母国語で注意喚起をしているが、なかなか守ってくれないと自治会の皆さんからよく聞く。これについては、外国の住んでいる方について、さぬき市でのルールを日本語の勉強してもらう中で、一つ一つ注意喚起をしているので、ごみの出し方の不適正な部分については市に相談していただき、外国の方の在り方の問題の中で一緒に考えていきたいと思う。その他、ダムや山の中に不法投棄する人が後を絶たない。看板を設置してたら良いのかと思えばそうでもない。悲しい話だが防犯カメラを付けて、不法投棄した人の住所や氏名まで警察に相談したらどうかと意見もいただいた。ルールを守らない人が得をするという社会では基本的な話としていけない。ただ、お互い住民のことなので、何もかも監視をして見るというのも私自身が出来たら避けたいと思うが、避けられないような状態になっている地域があると聞いている。今後監視をすることにより、イソップの童話で言うと北風のように厳しくいくことも考えなくてはならない。また、教育の問題に戻るがある小学生が、お父さんが運転していて飲み物を飲み、それを窓から捨てた。子どもが、お父さん、先生が道路にごみを捨てたらいけないと見てなければ構わないと答えたそうである。やはり権利を主張するのに義務が裏に引っ付いていると、ごみの不法投棄は犯罪であるということが学習出来るように考えていきたいと思う。環境も広く言えば環境保全ということになるので、安全安心と環境保全はこれからキーワードだと思う。特に、人がたくさん来てもらう所で守られていないというケースがたくさんあると聞いているので、注意しながら、また協力しながら、まずは周知啓発に努めていきたいと思う。

○意見なし

4 農業政策について

○市長回答

有害鳥獣の被害を何とかしないと耕作をしている方の意欲を削ぐし、ますます耕作放棄地になる悪循環をもたらすので、今まで有害鳥獣で代表的なのは猪と、猿、鹿、ハクビシンが

あるが、猪については侵入防止柵を作り、そこに電気を通して猪が触ると電気がくるというので一定程度の効果はあると聞いているが、猿の場合は、その上を飛び越し困っているのが実情だと理解している。これを防ぐものには、財政の話で大きく二つあり、一つは個体を減らす。具体的には東北を中心に熊が出ており、まず固定数を減らすには獣友会の方に御協力を得て、奨励金もあるので個体を減らす。猪は多産なので一度にたくさんの子どもが産まる。うり坊がたくさん出来るので、駆除してもなかなか効果が上がらない。それでも、最近少し個体数が減っていると聞いているので、諦めずに辛抱強くやることと、進入路を絶つ方法があり、一つは物理的に入ってこないようにする。もう一つは猪とか有害鳥獣が里に下りてくる必要がないような例えは餌に困って下りてくるのであれば、山に少しどんぐりや、猪が食べる木を植えることによって下りてこないようにする方法もあるが、なかなかうまくいっていないのが状況である。猿の場合は、その上に空中戦で飛び越して行くので、知恵があるため一度ここに行ったら餌があると思った時には、団体で来る。先日、市議会で追い払いの花火をもう少ししたらどうかとの御意見もいただいた。ただ、花火や大きい音を出すと周辺に住んでいる方に十分周知していないと突然大きい音がするため、生活の妨げになる場合があるが、そういうことをすればした所では同じ場所に猿が来ることがないという結果も出ているようなので、追い払いについて組織的に熊の様に自衛隊へお願いするわけにはいかないが、大型の罠を市で準備し、自治会に協力していただける所には提供する。さらには、なかなか難しいが猪のジビエ料理をして、収益を上げながら有害鳥獣の被害を防ぐ。専門的な知識も必要なので、政府として集落支援員や、地域協力隊の制度があるので、もしそういうことが出来る人がいれば募集をして、単に減らすだけでなく付加価値を付けて有効活用することにより、害を減らす。一步踏み込んだ対応も考えていきたいと思う。ただ、猪であればすぐに捕まえて食べるわけにはいかず、衛生処理をしないといけない。そのため専門性や十分な衛生管理が必要なので、専門家の人が既存の制度の中で得られるのであれば、他の例も参考にしながら今までの個体を減らす、侵入を防止する以外に有効活用することにより、有害鳥獣の被害を減少させ、かつ上手くいければそれを活性化のプラス材料に出来ると思っている。今、農業政策については大臣が変わり、お米の量産について議論がされている。東かがわ市だと思うが最初のお米を少し上の方で刈り、残ったもので二度お米をとることをしている。聞いてみると、そのためには新しく刈る機械が必要なため、すぐ出来ない。昔、我々の年代で言うと、お米を二度とっていると小学校で確か習ったが、あまり手間がかからず、二毛作ではなく二期作にして収益が上がれば令和の米騒動と言われた、どうなるか分からぬが、そういうことも含めて何とか地方は農業や漁業を離れて活性化するのは大都会に近い所だと思うので、ベースとしての一次産業として漁業や農業、もちろん林業もあり、香川県は林業の比重が低いので、一次産業を見直すことが今求められているのではないか。そして、それをするためにも御提案いただいた有害鳥獣の対策についてこれまで以上に国や県と相談しながら、少なくとも意欲がなくならないように中山間地域で農業をされる方が続けられないとならないように対応していきたいと思う。

○意見なし

5 コミュニティ・防災対策・市民病院について〔追加〕

○市長回答

コミュニティですが、自治会の加入率が軒並み低くなっている問題が指摘されている。ただ、さぬき市は8市の中で言うと皆さんのおかげで加入率は一番高い。去年の9月30日現在で、さぬき市が68.1パーセント、高松市が49.13パーセント、三豊市65.6パーセント、東かがわ市63.8パーセントなので、市の中ではさぬき市は非常に高い。これは自治会長の皆さんのが努力されている結果なので感謝したいと思う。町で言うと土庄町78.9パーセント、小豆島町89.8パーセント、直島町81.7パーセントなので、3町に比べるとさぬき市は68.1パーセントなので低いが、加入率が下がっている中で皆さんのおかげでさぬき市は健闘している。自治会は何かと言う話を時々自治会に入っていない方から問われる。最近、学校にPTAがあるが、PTAに入らなければ法律に違反するのかということで来られた。おそらくPTAは任意加入だと申し上げたが、事実上は強制になっている。一人だけPTAに入っていなければ自分の子どもが白い目で見られると言うので、それは市長に言う前に自分の子どもさんが通われているPTAの方とよく話してはどうかと申し上げた。自治会についても、自治会に入って得することがあるのかと言う方もおり、私自身信じられないような考え方の方もいる。自治会は基本的に入る、入らないというのではなく、そこで生活する人が一緒になっていろいろなことをしようという話であり、入らない選択肢が私自身ないが、その中で強制して入ってもらう訳にはいかないので、何か起った時に、例えば災害の際に自治会の中でいろいろな人間関係や連絡方法があれば非常に助かる。ごみの処理にしても自治会の皆さんのが例えればごみの集積場を当番できれいにしていただき、そこに取りに行くということでうまく回っている。直接市役所へ持ってこられる方もいるので、自治会の皆さんのが何も言わずに入ってくれるようにしたい。個人主義が誤解されていて、憲法の中の13条に国民は全て個人として尊重されてという条文がある。個人として尊重することと、自治会に入らないということとは違うと思っていて、個人として主張するのであればあなただけが個人ではなくて、皆個人なので、人権と人権がお互いに上手くいくためには自分個人ことだけを個人として尊重されるのは出来ないのでないかと伝えたが分かってもらえなかった。いずれにしても市としても自治会を単に行政の手段というレベルの低い話ではなくて、人間が生活して共生する共に生きる、お互いが認め合い、お互いが支え合い、お互いが必要とし合い、お互いが許し合う、人間として当たり前のことをするために自治会と一緒に作っていきませんかという話をしたいと思う。ぜひ、連合自治会長さんよろしくお願ひしたい。それから防災対策で、被害想定の見直しをかけ津波なども若干高くなっている。今まで3.8だったものが4.1になり、避難所での一人当たりの面積を石破前総理大臣が避難所で関連死しないためにもう少し面積を広げましょう、質を上げましょうと取り組みされて、今度の総理大臣が引き継ぐか分からぬが関連死があつてはいけないので一人当たりの面積を増やす、出来るだけ板の間で寝るのではなく段ボールベットで寝る、室内のテントで個人空間を作ることを進めていきたいと思う。特にトイレの問題だが、食べるのも大事だが、出すのももっと大事だと思っており出すことを躊躇して水を飲まない、出すことが嫌で食べ物を食べないことが関連死に繋がっていると医学的にも証明されているようなので、避難所の質を上げたい。ただその時には現在の避難所では、面積が一人当たり増えるため足りなくなる。新たに避難所を指定する必

要があるが避難所だけが避難場所でないので、浸水被害にあわない御親戚や友人宅に避難するのでも構わない。日頃から行き来をしていただき、避難所でなく例えば離れ等で生活し、避難所で生活するのと同じようなサービスを市が考えてするようになれば、個人の方も避難所で集団生活するのと居心地も異なるし、障害がある方の福祉避難所がなかなか皆さんと一緒に行った場合に、お互い個性の理解が十分でなければ周りの方が一緒におりづらいとの話も聞く。そこで市から提案させていただくが自分の避難所がある方についてはぜひ、申し出ていただき避難所にはどうしてもそこしかない方の面積や、質を上げるためにお金等を使いたいと思う。最後に市民病院だが、旧大川郡で津田、志度の方は市民病院には縁がないと思っている方も多いと思う。津田の方は旧県立津田病院があり、志度の方は屋島病院がある。今、市民病院は様々な御意見をいただき再生に向けて院長を中心に行っているので、病気にならずに協力していただき、私たちの市民病院という形で何とか再生したい。コロナの時に市民病院は東かがわの方にとっても、大いに役に立った。そして、国の助成制度のおかげで空床保障と言って万が一の時に使えるようにしていれば、人が入る、入らないに関わらず支援金をいただいて、コロナの3年間で経営も黒字が続いた。それが、コロナが感染症になつたために感染症になる人が減ったため、入院される患者が少なくなり、経営も厳しくなっている。何とか市議会にもお願いし、貸付金という形で再生を図っている。救急の時にいつでも受けてほしいとの御意見はごもっともだと思う。病院があいている間は100パーセントを目指そうと。ただ問題は夜間に心筋梗塞等の受入れの際に、専門医がいない場合、お断りする場合があるが、それを出来るだけ受け入れられるような体制にしたい。もう一つは人間ドックをしているが件数が少ないので、工夫してたくさん受入れる。どうしても香川大学医学部付属病院でないと治療が出来ない高度医療については、市民病院を通じて責任を持って医大へ繋ぎ、治療したのちに市民病院にかえるシステムを作つて頑張ろうとしている。何かあれば市へお伝えいただきたい。最後の拠り所と私は思つており、もちろん福祉も保険も大事だが人間はやはり生きていてこそであるので、最後の砦になるように市議会にもお願いし、貸付金の財源についても9月第3回定例会でお願いしているので経営が厳しいと御理解いただき、病気になる以外で病院を皆で盛り立てていきたいと思う。ちなみに公立病院の80数パーセントが赤字となっており、原因は診療報酬が2年に一度改定しており、物価高を反映していないこともあり、総理大臣は診療報酬の改定を末前に補助金を出すといつていただいているので、そこにも期待したい。何よりも民間の医者では儲けにならず、赤字が出るのでしていただけない所がたくさんあるので、そういう所を可能な限り行い市民のための病院としていきたいと思う。

○意見交換

【鶴羽支会】

病院は、本来儲けを目指すものではなく、命がお金次第では困るのでお伝えしておく。質問は、教育について私は素人だが市長がおっしゃったいじめも不登校もない学校を目指すことは素晴らしいことだと思う。昨日、文科省が統計データを発表し四国紙面の紙面に掲載されていたが、いじめと不登校がほぼ最高であった。素人考えだが、少子化がこれだけ進み子どもの数が減っているのに、学校は学習指導要領や教科書の国の責任が重い。教職員の給料は県が出すし、さぬき市の関与出来る範囲はどの程度なのか。学校の正門にはさぬき市立津

田小学校とか書いているが、どの程度関与出来るのか。例えば国、県、市で 1/3 ずつ関与出来る等お答えいただきたい。

【教育長】

昨日の新聞でいじめや不登校が全国的に増えている掲載があった。さぬき市も同じような状況である。ただ、昨年については不登校がさぬき市で若干減り、これまで市として取り組みをしたことが影響し、減ったのではないかと考えている。どの程度関与出来るかだが、教育については基本的にはおっしゃられたように文科省で定めている学習指導要領に基づいて行っており、実際にそれに基づいて教育をするのは学校現場の先生である。割合はお答えしづらいが、それぞれの市町の考え方も含めながら基本を守りつつ教育を進めている。その中で、市長もさぬき市としての考えも部分的には対応しながら、さぬき市の良い所も子どもたちに教えながらの教育を進めているのが実情である。

【市長】

義務教育であり、現場の先生の中でももちろん市が給料を出している職員の方も何人かいいると思うが、権利が教職員なのでどの学校にどの先生が行くかという人事権は県教育委員会になるので、人員の要望はしている。実際の服務の中での市の関与もあるが、県が採用した職員が各市町の小中学校に来ている中で、市の関与はなかなか及ばない部分があるのが実態である。

(閉会)